

第7回 真砂地区学校適正配置地元代表協議会

1 日 時 平成21年2月18日(水) 16時00分～18時00分

2 場 所 美浜区役所 3-2会議室

3 出席者

(1) 委 員

*欠席委員：島村委員、土屋(敏)委員

(2) 事務局

山崎課長、古館主幹、加茂主査、伊藤主査補、齊藤主事

(3) 傍聴者 10名

4 議題

(1) 真砂地区の適正配置の方向性について

(2) 次回開催日時・場所について

5 会議資料

(1) 資料 中学校の適正配置について

6 議事の概要

(1) 真砂地区の適正配置の方向性について

資料をもとに、真砂地区の中学校の学校適正配置の方向性について協議した。

(2) 次回開催日時・場所

平成21年3月25日(水)午後4時から6時、真砂コミュニティセンター第1講習室にて開催することとした。

7 会長挨拶

前回、真砂地区の小学校の適正配置の方向性についてまとめることができた。これも、委員の皆様が、小異を捨てて大同につき、真砂地区の子どもたちの教育環境、つまり「学校」をどうよくしていくか、ということをも最も重要な視点として協議していただいた成果だと思う。私たち大人は、地域住民として、また保護者として、子どもたちと学校を支えていくことが大切であり、そのことが、学校を核とした新たなこの真砂地区のコミュニティづくりにつながると考える。

本日は、中学校の適正配置が協議の中心になると思うが、引き続き、この真砂地区の子どもたちの教育環境をいかにすべきかとの視点で議論していただきたいと思う。

8 発言要旨

(1) 真砂地区の適正配置の方向性について

中学校の適正配置について

〈富田議長〉

前は、小学校について、方向性が定まった。本日は、真砂地区の中学校の適正配置について協議したい。前回の協議会で、委員の中から「統合して人数が増えることによる人間関係を懸念している。」といった意見がある一方で、「子どものためにも多くの人数の中での切磋琢磨や様々な経験が必要であり、中学校の統合について前向きに検討していきたい。」といった意見があった。

学校適正配置の趣旨は、子どもたちの教育環境をいかに整備していくかにあるので、再度事務局から中学校の統合について、その教育的効果を説明していただき、まずは「真砂地区の中学校の教育の質の向上」という観点で協議を進めたい。

〈事務局〉

中学校の統合について、その教育的効果、真砂地区の状況及び課題に対する市の対応方針について説明する。

1 教育的効果について

・中学校は教科担任制をとっており、小規模校では教科によっては免許外の教員を配置したり、非常勤の講師を配置したりせざるを得ないという状況であるが、できれば各教科の担当教員が、学校に複数名配置されることが望ましい。教科指導について、学校外の教員との研修も必要であるが、「今、この学校」にとって一番適した教授法を研究するためには、校内で同じ教科を受け持つ教員同士で研修できる環境が必要である。

・中学生は行事を通じて様々な感動体験をする中で、自己実現を味わい、人間関係を深め、大人になっていく。小規模校でも、行事での感動体験を子どもたちに味わせるために、教員は現状の中でいろいろな工夫をしているが、例えば、学級対抗の行事を行っても、学級が学年に2つでは、必ずどちらかが優勝でどちらかが準優勝である。自分は中学校の教員の経験があるが、達成感や充実感のある行事を体験した子どもたちは、仲間意識も高まり、落ち着いた学校生活を送ることが多く、よい効果があるということを実感している。

・青年期に入る中学生は心身ともに急激に成長する時期であり、そのような中学生を「学年」という社会集団の中で、教員がいろいろな役割を持って指導することが、効果的である。学年に複数の教員がいて、学年主任・副学年主任・進路担当、生活担当・生徒会担当等を教員経験や得意分野に応じて担い、指導していくことが望ましい。

・部活動も子どもたちのニーズにあった部活動を開設していきたいが、小規模校ではなかなか難しい。中学校によっては、小規模校でもそれなりの数の部活動を開設し、顧問も複数配置されているように見えることがあるかもしれないが、現実には、学校の内部努力によるところが大きい。例えば教員が必ず二つの部活動を受け持ち、一つは正顧問にもう一つは副顧問になることで、仮に正顧問が出張等でいない時でも副顧問が補うといった体制をとっている。教員の数が足りないのであれば、「外部のコーチに指導してもらえばよい」という考えもあるが、それ以前の問題として、子どもたちを掌握し、指導に責任を持つ顧問になる教員の絶対数、さらには部活動をする生徒の絶対数が足らなければ、部活動は開設できない。部活動を活性化させるためには、ある程度の生徒数と教員数が必要である。

2 真砂地区の現状について

・平成20年度、真砂第一中は7学級、真砂第二中は9学級であるが、平成26年度には、2校とも6学級、つまり各学年2学級になると予想される。これは、統合が行われなかった場合、免許外の教員を配置したり、非常勤の講師を配置したりせざるを得ない学校規模である。また、行事にも相当の工夫が必要になり、部活動の開設数も減り、学年当たりの教員数も少なくなるだろう。

・中学校2校を統合した場合には、12学級、つまり各学年4学級規模の学校になる。各学年2学級の学校と比較すると、免許外教員を配置する必要もなく、行事も充実し、部活動も多く開設できるだろう。

3 中学校の統合に伴う課題について

- ・統合校の制服、校名、校歌、校章等については、統合の合意形成がなされた後に設置する統合準備会で話し合うことになる。そこで、具体的にどのような学校をつくっていくかを協議することになる。

- ・自転車通学の承認については、学校長の判断による。千葉市内でも、一定の決まりを設け、2 km～4 kmほどの通学距離のある生徒に対して、自転車通学を認めている中学校がある。しかし、真砂地区においては、仮に中学校が統合したとしても、通学距離が2 km以上になる地域はない。

- ・中学3年の受験期に当たった場合、不利にならないかという不安も聞く。中学校の統合に限らないが、統合校への職員の配置に当たっては、子どもたちの心理面を配慮するとともに、地域性を理解した教育の推進が図れるよう、統合前の職員をバランスよく配置する。仮に統合の合意形成がなされた場合は、「統合準備会」に当該校の先生方にも入っていただき、統合後の学校生活に支障がないよう、指導方法や評価方法、カリキュラム作成等について十分協議するので、心配はいらない。千葉市では中学校の統合の事例はないが、実例のある他市に話を聞いたところ、高校受験等に関しては特に問題はなかったということである。なお、高校に提出する評価については、かつては、相対評価で評価割合が決まっていたが、現在は絶対評価で、一定の基準に従って評価しているので、統合前の学校での評価が、統合したことによって変わることはない。

4 中学校の統合に伴う市の対応

- ・前回の協議会で、小学校を統合した場合に、統合に伴う大きな変化を和らげるために、市の少人数学習指導教員（非常勤）の現行の配置基準（小学校1～3年で36人の学級が生じた学年に1人配置）を緩和し、統合に伴い31人以上の学級が生じた全ての学年に、少人数学習指導教員を1人配置することを説明した。

- ・中学校を統合した場合には、統合校に2名の少人数学習指導教員を配置する。中学校は、生徒指導上、学級よりも学校に教員の数が必要だと考えるので、学級規模にかかわらず、2名の教員を加配し、教育環境をより充実させていきたいと考えている。

〈富田議長〉

今の事務局からの説明で、統合により期待される効果が4点あったと思う。小規模校のメリットもあると思うのだが、統合後、その良さがどうなるのかも説明していただきたい。

〈事務局〉

学校は、地域や保護者に支えられながら、子どもたちにできるだけよい教育ができるように努力しており、決して、今の状況が悪いわけではない。「学校の適正規模について」の資料に、小規模校のメリットとデメリットの表があるが、小規模校は、互いに顔馴染みでアットホームな雰囲気がある、学校施設がゆったりといつでも使える等、良い部分はたくさんある。今回の学校適正配置は、良い部分はできるだけ活かしながら、学校をさらに良くしていく取り組みと理解していただきたい。

〈富田議長〉

委員の皆さんには、真砂地区の学校における教育効果を高めていくためには、どのような環境が必要か、という観点で協議していただきたい。まず、順番に委員の皆さんの意見を伺いたい。

〈久保田委員〉

事務局からの資料は、「統合したほうがよい」という資料である。今、ニュース等で学校が荒れているという話を聞くし、学校が大きいと目が行き届かないということもあるので、生徒数は少ない方がよいのではないか。今の社会は、競争、競争で格差が広がっている。学校を大きくして競争すればよいというものでもないだろう。小さい学校で、競争などせず、肩を寄せ合って生きていく方がよいと思う。統合しないと教員が減るとするのであれば、教員の配置基準を見直すべきではないか。教員が少なくて学校運営が大変だというのなら、外部のボランティアを入れるなどして、民間の力を活用すればよいだろう。

〈出町委員〉

統合して学校規模が適正になることの一番のメリットは、免許外の教員を配置せずに、教科担任制ができることだと思う。真砂第一中と真砂第二中の保護者も、このことには、異議はないだろう。保護者の方が一番心配していることは、統合後の通学路や通学距離が変わることではないか。統合に当たっては、保護者の方々の意見を尊重したい、というのが私の意見である。

〈高橋委員〉

統合校は大規模改修を行うので、統合によるメリットは、先ほどの事務局からの説明の他に、学校施設が充実することもあるだろう。千葉市の全体の予算が年々減っている中で、教育予算も減っていくと思う。それを考慮すると、統合はやむを得ないだろう。それに、学級が多い方が、友達も多くでき、卒業してからもよいことがたくさんある。私は、1学年5学級くらいなら、学校運営に問題はないと思うし、通学距離についても、中学生は体力もあるし、2kmくらいであれば心配はないだろう。中学校の統合には賛成である。

〈佐々木委員〉

前回の、小学校4校を2校にするという結論を前提にすると、中学校は2校とも残し、小学校2校、中学校2校にするべきだろう。今は、これまでの教育環境を変えて少人数化を図っていく方向になってきていると思うので、現在の学級編制基準で今後の学校の在り方を考えるわけにはいかないのではないかと。以前、千葉県議会において、25人学級にすることが全会一致で決議されたと聞いている。これが目指されている方向ではないか。また、自由学区制（学校選択制）にし、学区の流動化を考えればよいのではないかと。東京ではそのようなところもあるようである。前回、小中一貫教育については推進を検討していくという話もあったし、伝統のある、真砂地区の中学校は、現状のままとして、教員の増員を検討していくことが望ましい方向ではないか。

〈嶋田委員〉

小学校・中学校とも一気に統合するのではなく、まず小学校を統合し、何年か様子を見た後に、中学校の統合をどうするか考えていってはどうか。小学校を統合して、いわゆる「1中1小」になれば、小中一貫校の可能性も出てくると思う。

〈土屋(明)委員〉

前回、小学校の統合が決まった。統合の時期は別として、中学校も、2校を1校に統合する方向が一番よいのではないかと。今、学校に子どもが少なくて寂しい。

〈森本委員〉

中学校をどうしていくかだが、嶋田委員の意見と同じで、小学校と中学校の統合を同時に行うのではなく、小学校の統合後、子どもたちの様子を見てから、中学校を統合していくのがよいのではないかと。統合前に交流するといっても、やはり統合して環境が変わると、精神的に不安定になる子どももいるだろうし、小学校と中学校とを同時に統合すると真砂地区の保護者は大変だろう。中学校の統合については、小学校の状況を見てから話し合う方がよいのではないかと。

〈成田委員〉

適正規模にすることのメリットは大きいので、中学校は統合する方がよい。ただし、小規模校のメリットもあるので、小規模校の良さも取り入れられる方法で統合することが大事だろう。小学校を統合してから、中学校の統合を考えていくと、小学校で統合を経験した子どもが、中学校でもまた、統合を経験することになる。それは避けたほうがよい。もし、中学校の統合を小学校の統合よりも後に行うのであれば、かなりの期間をあけて、統合を二度も経験する子どもが出ないようにしないといけないのではないかと。また、前回、中学校の小規模校化の方が切実な問題だ、という意見もあった。発想を転換し、中学校を先に統合するというやり方もあるのではないかと。そうすれば、統合を二度、経験する子どもはいなくなる。

〈黒川委員〉

統合後のメリットを見れば、統合する方がよいだろう。ただ、一保護者の立場から意見を述べると、自分の子どもが統合の時期に重なるのであれば、中学校1年生のときがよいな、と思う。3年生のときに統合が行われるのは、高校受験もあり、やはり不安だろう。保護者の代表という立場としては、中学校も統合したほうがよいと思う。真砂地区の協議会が一番早く進んでいるようであるが、他の地区の進捗状況を教えていただきたい。

〈事務局〉

現在は、真砂地区の他に、磯辺地区、高洲・高浜地区、幸町地区の地元代表協議会において話し合っているところである。どの協議会も、6回ほど開催しており、ある程度の方向性がまとまりつつある協議会もある。真砂地区は協議会の立ち上がりが一番早かったということもあり、少しだけ早く進んでいる。

〈大野委員〉

現在、中学校の実状が少しわかってきたところである。子どもたちのことを第一に考えるべきだと思う。保護者会の代表として、統合の賛否や時期については、まだ言えない。

〈中家委員〉

真砂第四小には、以前、音楽の専科担当教員がいたのだが、小規模校化で学級数が減ったため、今はいない。専科担当教員がいるといたないとでは、その差は非常に大きく、早急な対応が必要ではないか、という意見もある。真砂第二中学校区で行った説明会でも、中学校の統合を早急に、という意見が多かった。教科担任制の中学校は統合した方がよいと思うが、小学校で統合を経験した子どもが、中学校でも統合を経験することがないようにした方がよいと思う。中学校では、受験の不安もあるかもしれないが、今は先生方が相当努力されていると思われるが、ある程度の規模が必要だと思う。

〈矢口委員〉

真砂第二中学校では、今まで、協議会の内容を運営委員会で報告してきている。シミュレーションが提示された時点で、それを添付して保護者にアンケートを実施したが、そのときは、意見は少なかった。その後、小学校の方向性が定まった時点で、今度は保護者全員に回答するよう言ってアンケートを実施した結果、回答数は199であった。皆さんにお配りした資料は、その結果を抜粋してまとめたものである。保護者からの質問に対しては、自分から保護者に答えた。アンケートの結果、保護者の大半は、統合はやむを得ないだろうという意見である。少数であるが、反対の意見として、統合して1学級の人数が増えることや、通学距離が長くなることを心配している、というものがあつた。私は、過保護だという気もするが、保護者の意見として素直に受け止めるべきだろう。しかし、大半の保護者は、「部活動の問題等もあるので、統合は前向きに考えなければならぬだろう」という意見である。今後また、アンケートをとってみたいと思う。

〈岩井委員〉

自分は、中学校が開校したときから学校に関わってきた。協議会の当初は、佐々木委員の意見のように、中学校は2校とも残すという方向性でよいと思っていた。しかし、真砂第二中のアンケート結果等を聞き、真砂地区の中学校にとってどのような形が一番よいのか考えたとき、中学校は統合を前提として、嶋田委員の意見のように、まず小学校を統合し、何年か様子を見た後に、中学校の統合をどうするか考えていってはどうかという考えもあると思う。

7年前、真砂第一中の剣道部が廃部になった。外部コーチを活用する制度はあるが、顧問の先生がいなければ、外部のコーチがいても部活動は開設できないため、なくなってしまった。剣道部以外にも、かなりの数の部活動が減り、保護者や地域の人との協力でたくさん造った部室も、減ってしまった。小規模校では、このようなことがある、ということである。今の状態でも特に大きなデメリットはないかもしれないが、過去にこのような経験をしている自分は、この先小規模校になって部活動がなくなるかもしれない、そうなったときの辛さは、身にしみてわかっている。そのときに一番可哀想なのは、子どもたちである。そう考えると、矢口委員が言うように、「統合はやむを得ない」という結論が導き出されるだろう。自分の周りの子どもたちに話を聞いても、「部活動がなくなってしまうから、統合するべきだろう」と言っている。子どもたちのために思い、小規模校になっていくと一番可哀想なのは子どもたちであることを考えれば、中学校を統合することはやむを得ない。統合の時期をいつにするかは別にして、統合するしかないだろう。適正規模にせず小規模校のままでは、部活動も開設できず、やりたい部活動がない子どもたちは、打ち込めるものがなくて荒れてしまうのではないかと、とも思う。また、私の息子は、通学距離が変わることなどは、子どもにとってはどうということはないと言う。子どもたちのことを思うのであれば、中学校の統合はやむを得ないだろう。

〈富田議長〉

委員全員の意見を聞いたので、次に佐藤相談役の意見を伺いたい。

〈佐藤相談役〉

自分は、名古屋市の小さな小学校で育ち、旧制中学校で学年5学級規模の学校になった。先生方が免許外の教科を担当することがない規模になるよう統合し、教育環境を充実させ、真砂地区で学ぶ子どもたちに「真砂に生まれてよかった」と思ってもらえるような学校にしたい。

〈富田議長〉

今までの意見をまとめると、統合に否定的な委員が2名、条件付で統合するのがよいという委員が2、3名、他の委員は統合に肯定的なようである。否定的な意見に対して、事務局から説明できることはあるか。

〈事務局〉

我々が考えている「ある程度の規模にする」ということは、大規模にするという意味ではなく、あくまでも「適正な規模」にしていくということである。中学校においても、18学級前後が最適な規模であり、その中で子どもたちがいろいろな体験ができる状況をつくりたいと考える。学校規模を大きくしすぎると、目が届かなくなり荒れやすくなると言うが、適正な規模であれば、より良い教育ができるものとする。

また、以前も説明したが、現時点でも、学級が一定の規模以上になったときは、少人数加配教員（県費負担教員）や少人数学習指導教員（市費負担教員）を配置している。現在、県では国の学級編制の基準を緩和して、小学校1・2年生及び中学校1年生は38人学級編制を実施しており、小学校1・2年生は37人以上の学級に、小学校3～6年生及び中学校2・3年生は39人以上の学級に少人数加配教員を配置している。さらに、千葉市では、県の教員配置基準を補い、小学校1～3年生で36人以上の学級が生じた学年に、少人数学習指導教員（非常勤）を配置して、少人数授業を推進している。

学校選択制にすればよいのではないか、という意見もあったが、千葉市は学区制を実施しており、「地域の子どもは地域で育てる」という考えである。また、最近では、学校選択制を導入した結果、地域の方々が学校を支えたくても地域に子どもがおらず、地域社会と学校との繋がりが希薄化するという弊害がある、との指摘もある。実際に前橋市では、学校選択制の撤廃を決定している。

生徒指導上、学年に教員が多い方が効果的である。担任だけではなく、様々な立場の教員が協力して、多面的な指導ができる環境を整えたい。

以上のことから、学校を適正な規模にすることで、子どもたちの教育環境がよりよいものになると考える。

〈阿部委員〉

真砂第一中の保護者の意見は、賛成・反対の両方である。小学校の統合は、花島小の実例があるが、中学校の統合の例はない。ずるい考え方もかもしれないが、何も、この真砂地区の中学校を一番先に統合しなくともよいのではないかと。他の地区の状況を見せていただいてから、真砂地区の中学校をどうするか決めたいと思う。今200人程度の生徒で、確かに学校行事は子どもたちが少なく寂しいとは思いますが、統合して急に明日から倍の500人規模になる、という状況は、賛成とも反対とも言えない。

〈久保田委員〉

真砂地区、高洲・高浜地区、磯辺地区及び花見川地区の、0歳から18歳の人口について、自分で調べてみた。真砂地区は町名別・年齢別に人口を出してみたが、人口は減らないと思う。高洲地区と高浜地区は、今後増えていきそうで、磯辺地区は戸建が多いせいもあり、人口は減っているようである。花見川地区は、もともと人口が少なく、統合せざるを得なかった過疎地であるという気がする。真砂地区は学校、病院、官公庁が充実しているという理由から、集合

住宅の世代交代で、子どものいる夫婦等の若い世代が入ってきているし、分譲の集合住宅にだけでなく、利便性の良い賃貸住宅にも若い人たちが入ってきており、人口は減らないという気がする。

また、地域住民にアンケートを実施した結果、学校を統合すると町の雰囲気が変わるという考えから、反対している人が多い。それに、統合するとなると、大規模改修に何億とかかる。財政難の千葉市において、二十何校も本当に統合できるのか疑問である。

小規模校で教員が少ないのであれば、民間や地域の人材を活用し、部活動の顧問にも、外部のコーチやOB等を入れて、能力のある民間人を活用すればよい。

〈富田議長〉

真砂地区の学校規模の現在と将来の状況について、委員会はどのように考えているのか教えていただきたい。

〈事務局〉

真砂地区の生徒数を将来的に見ると、基本的には横ばいと予想される。事務局でも、住民基本台帳を元に、入学率や開発があったときの子どもの発生率等の地域の特性を勘案して推計している。入学率は、真砂地区の過去4年の入学状況の平均から算出しており、住民基本台帳に比べてどの程度かというところ、小学校は一番小さい所で0.97、中学校は0.85と0.87である。難しいのは、真砂地区に住む子どもたち全員が真砂地区の学校に進学すればよいが、私立等の学校を選ぶ保護者もいることである。

中学校の規模の現在と将来の状況については、真砂第二中は現在、各学年3学級ずつの9学級であり、免許外教員を配置しなくてよいぎりぎりの規模であるが、平成26年度には生徒数が減り6学級規模となることが予測される。そのため、真砂第二中の保護者の方々の多くは、統合はやむを得ないという意見なのだと思う。また、真砂第一中は現在、本来6学級規模であるところを、2学年に配置された少人数加配教員を活用して学級を増やしているので全校で7学級となっており、平成26年度も6学級規模のままと予測される。現在の規模を適正な規模と考える方もいるかもしれないが、教育委員会としては、もう少し大きな規模にすれば、より良い教育効果が現れるのではないかと考えている。

教員が少なければ民間活力を導入すればよい、という意見だが、現在でも活用している。例えば、ボランティアで家庭科や日本語指導の授業に入っていたり、部活動の手伝いもしてもらっていたりしている。しかし、学校は学校の責任で教育活動を行わなければならない。部活動には顧問の先生を置かなければ、外部の人材を入れること自体できない。教員がいて初めて、民間の人材の協力をお願いすることができる。教員がいなければ部活動も開設できない。ある校長先生から、小学校6年生の子どもたちが中学校に進学するときが一番問題にしていることは、部活動のことであるという話を聞いた。子どもたちが、「自分のやりたい部活動が進学先の中学校にない」と残念そうに言っていたということである。魅力のある中学校があり、そこで子どもたちが学べるような地域が、理想だと思う。

〈佐々木委員〉

真砂地区の入学率と千葉市全体の入学率と比較できるようにしたいので、資料をいただきたい。私は、適正な学級人数は、25人ではないかと言ったが、現在、国の学級編制基準を緩和して教員の加配を行っているということ自体が、現行の40人学級編制では大きいという考えなのではないか。また、仮に真砂第一中と真砂第二中を統合した場合の教員人数が、統合前の教員数を単純に合計した人数より減ることになる。このような統合は、無理があるのではないか。

〈事務局〉

このことは、協議会の最初の頃に議論したと思う。より多くの教員を配置できれば、それに越したことはないが、教員の配置は、教育の機会均等の観点から、千葉県内どこの市町村も同じ基準で、県が行っている。県では、国が法律で定めている40人という学級編制基準を緩和しており、加配教員を配置することで、実質的に、38人学級編制を可能にしている。また、統合前の教員数を単純に合計したよりも、統合校の教員の数が減ると、必ず言われるが、統合することにより、学校当たりの教員の数は確実に増える。学校に多くの教員がいた方が、多くの目で子どもたちを指導することができ、これは統合の大きなメリットである。それに加えて、統合校には、千葉市として教員の加配をしていく考えである。中学校が統合した場合は、2名の非常勤教員を加配し、統合による環境の変化を緩和していきたい。これは千葉市独自の対応で、他の政令市でも例がないことである。ご理解いただきたい。

〈佐々木委員〉

統合による加配教員は、何年間配置されるのか。

〈事務局〉

中学校の統合による加配教員の配置期間は、統合後3年間を考えている。最終的には統合校も、他の学校と同じ基準のなかで教員を配置していくことになる。

〈富田議長〉

ここまで議論をしてきて、中学校の適正配置の方向性について、もっと時間をかけて議論すべきだという方と、もう決めるべきだという方がいると思うが、どのように判断するか。

まだ協議したほうがよいか、もう結論を出したほうがよいか、ということをお委員の皆さんにお聞きしたい。

〈事務局〉

今後、真砂第一中学校区で、保護者対象の説明会を実施すると聞いているので、その後で判断することもできるのではないか。

〈岩井委員〉

真砂第一中学校区の説明会をしてから考えるということは、真砂第一中学校区の保護者の意見に従うのか、ということになる。そこでの結論に協議会の意思が左右されることはないし、あってはいけないだろう。ここで、採決してもいいのではないか。

〈久保田委員〉

地域の意見を立てるべきだろう。

〈嶋田委員〉

中学校の方向性については、真砂第一中学校区の意見は意見として、次回の協議会で決めることとし、それまでに各団体で検討期間を設けてはどうか。各団体で検討する期間はあつてしかるべきだろう。

〈阿部委員〉

真砂第一中の説明会を待っていただけるのは、非常にありがたいが、岩井委員の言うように、真砂第一中が統合しないという意見なら協議会もそうなるのか、という意見も正論である。確認したいのだが、方向性は、協議会委員の多数決で決めるのか。先ほどの話だが、今月末に事務局の方にも来ていただいて、真砂第一中学校区の真砂第二小、真砂第三小、真砂第一中の保護者への説明会を開催する。その説明会での意見交換の内容を聞いて、今と意見が変わる委員もいるかもしれない。そのような可能性もある中で、今、中学校の統合に賛成か反対か決めていいのだろうか。いま、真砂第一中の子どもたちも保護者も、現状には困っていないし、一度統合すると決めたら、もう後戻りはできない。

〈出町委員〉

富田議長は、中学校の方向性について、次回の協議会でも引き続き議論した方がよいのか、それとも、そろそろ結論づけたほうがよいのか、それを我々に聞こうとしているだけだろう。

〈矢口委員〉

真砂地区の中学校をどうしていくか、という問題である。真砂第二中の保護者にアンケートを実施した結果は先ほど発表したとおり、統合はやむを得ないと考えている保護者が多数であるということである。同じように、真砂第一中も、保護者の意見を協議会に出すべきだろう。協議会の委員は、真砂第二小、真砂第三小、真砂第一中としての意見を聞くべきで、それを聞いた上で、また考えればよい。

〈阿部委員〉

真砂第一中区でも保護者へのアンケートは実施しており、真砂第三小では既に3回実施しているが、その結果をこの協議会でどのように出すべきか迷っており、また、アンケートの結果、公にできないような内容もあったので、現段階では、まだ出さずにいるところである。真砂第一中学校区の保護者がどのように考えているか発表した時点で、委員のみなさんの意見を聞く、という方法もある。

〈矢口委員〉

保護者の声が出ているのに、それを隠すのはよくない。どのような意見でも協議会に出していただきたいし、出していただいた方がよい。

〈富田議長〉

次回は、真砂第一中学校区でまとめられた意見を協議会で発表していただき、また、議論したいと思う。中学校の適正配置の方向性を決める際は、多数決で決める方法が、はっきりしてよいのではないか。

〈北澤会長〉

小学校の方向性を決める際も多数決で決めたので、結論を出すときは、挙手がよいと思う。

〈土屋（明）委員〉

統合はすぐに行えるわけではないので、方向性だけでも決めた方がよいだろう。

〈富田議長〉

今議論しているのは、あくまで方向性であって、統合の時期や場所、跡地の問題など協議すべき内容は、まだたくさんあることをご理解いただきたい。

〈高橋委員〉

前回の協議会で、小中一貫教育についても情報提供するとあったと思う。今、教育委員会が策定している「学校教育推進計画」においても、目標値として小中一貫校を6校開校するとある。本日はもう時間がないので、次回の協議会でこの点についても説明をお願いしたい。

〈岩井委員〉

各団体で4月に役員の変更があるため、次回の協議会は、委員が変わってしまうのではないかと。

〈矢口委員〉

4月に役員が改選し協議会委員が変わる前に、今年度中にもう1回協議会を開催した方がよいだろう。

〈北澤会長〉

本日は委員の方より多くの意見があり、真摯な議論が交わされた。学力の向上や統廃合に係る財源については、教育委員会に任すべき問題だろう。私たちはあくまで、子どもたちのために真剣な議論をしていきたい。

※次回協議会は、3月25日（水）、真砂コミュニティセンターにて開催することとした。